



大麻東中学校区小中一貫だより

第1号 令和7年5月16日

事務局 大麻東中学校



第1回 合同会議開催



令和7年度の大麻東中学校区の小中一貫教育が始まり、今年度第1回目の合同会議が開催されました。体育館での全体会後、部会ごとに年間活動計画が検討されました。自分の所属部会以外の動きが見えにくい部分もあると思いますので、各部会で話し合った内容をお知らせします。それぞれの部会の状況を全先生方で確認していければと思います。合同会議や行事ごとに、今後も発行する予定です。今後もよろしくお願いいたします。（文責～大麻東中：福本）

《教育課程部》（部長～大麻東中：青柳先生）

- ・9/19 中学校登校（泉小・東小）を実施する。小6と中3の合唱交流会。
- ・中学校から小学校へ乗り入れ授業。6年生への授業を、泉小6/17（社会）、東小6/18（英語）で3・4時間目に行う。
- ・「江別市小中学校教科系統表」による東中校区の重点項目の見直し
昨年度までの教科系統表重点項目の検証 … 小学校は6年生で検証（5教科）
重点項目の再検討 … 中学校1、2年生のNRTの結果をもとに分析（5教科）

《学力部》（部長～大麻東中：松永先生）

- ・校内授業研への参加は今年度も行う。学力部から必ず1名以上参加できるよう連絡調整する。
- ・学習規律スタンダードについての検討。内容については昨年度のまま。子どもたちに浸透しやすいデザインになっているか、再検討していく。
- ・各種調査物、検査物はGoogleドライブに保存し、11月合同会議で交流。
- ・ICT活用交流については口頭で交流。Canvaやスマイルネクストドリルの活用の様子など、各学校でもしわかるものがあれば、クラスルームに保存。交流したことは各校で還元する。
- ・自学自習・家庭学習について、中学校では全員に家庭学習ノートの提出を求めることは難しいということで交流をやめていたが、他中学校区の取り組みを参考に、再度交流する。

《体力部》（部長～大麻東小：升田先生）

- ・中学校部活動体験を、夏休み7月28日・29日、冬休み12月26日に行う。
- ・体力テスト合同実施については、8月29日に小4・中1が対象。種目は(①50m走②反復横跳び③立ち幅跳び)。中学生がバスで移動するので、中学校の小中一貫担当者がバスの発注等をすすめる。
- ・体力向上に向けての取り組み、新体力テストのデータについての交流。

《生徒指導部》（部長～大麻東小：尾田先生）

- ・年間活動計画の確認と生徒指導交流。
※今後は交流の内容をしばって口頭で交流(昨年度は問題行動…マニキュアやピアス、髪を染める子や保護者の対応など)。不登校、不登校傾向の実態と指導についてなど。
- ・生活規律スタンダードについて
→生活規律スタンダード改訂について、文言の見直しについてはなし。
新しいイラストは 東中の美術部作品から選出。
→「3つのき」について啓発まではできていたが、共通指導はしていなかったなので、今年度から共通指導に取り組んでみる。指導時期を決めて1つずつ共通指導する。
夏休みまで～「きもちのよいあいさつを」
夏休み明け～冬休みまで「きれいに整理整頓を」
冬休み明け～年度末「きをつけて登下校を」
各校で重点的に取り組み、反省を11月に持ち寄る。
取り組みのしかたは、委員会活動の中でなど、各校の工夫による。

《特別支援教育部》（部長～大麻泉小：深井先生）

- ・個別の指導計画と通知表の形式について話し合った結果、小・中それぞれで発達段階の特徴に応じて作成するという視点が大切だという考えにまとまった。それぞれの学校で、お互いに良いと思うところを取り入れていくスタイルが望ましく、小学校が無理に形式を中学校に合わせる必要はないという結論に至った。個別の指導計画や通知表や要録についての情報交換は、今後も3校で必要に応じて行っていく。
- ・支援学級、通常学級に在籍する特別支援が必要な児童の交流を今後すすめる。
- ・日常的な指導に関わっての話もできたらしていく(自立活動や性教育など)。

《児童・生徒会部》（部長～大麻泉小：奥村先生）

- ・リモート挨拶運動の日程 前期 6月25日(水) 泉小と東中、6月27日(金) 東小と東中
後期 12月3日(水) 泉小と東小
- ・児童会生徒会交流～クラスルームを作成し、委員会便り等をアップして交流する。中学校の学校祭の動画をアップする→小学校では、5・6年に必要な箇所を見せると良いかもしれない。

《推進委員会》（大麻東中：福本）

- ・令和7年度の各部会の取り組みを交流、確認しました。
- ・小学校の長期休みの学習会に、中学生が参加し、丸付けや指導のサポートができないか、今年度は推進委員が中心となって進める。
- ・英語検定を小学生が中学校会場で受検ができるような流れを今後検討していく。



特別支援教育部



生徒指導部